

# 富士市中小企業景況調査結果

令和6年度 第4四半期【令和7年1月～3月】

令和7年4月  
富士商工会議所調べ

## ◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。  
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率62.5%)を対象に、「令和7年1月～3月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

### DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、  
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和6年10月～12月 今期…令和7年1月～3月 来期…令和7年4月～6月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

## ◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲6.1	→	▲7.6 (▲8.9)	↘	▲16.1
売上	11.4	↘	▲4.2 (6.6)	↗	1.7
採算	▲10.7	↘	▲19.5 (▲16.3)	→	▲18.8

今期調査では、全産業合計の業況DIが-1.5ポイントの減少、売上DIが-15.6ポイントの減少、採算DIが-8.8ポイントの減少となった。業種別の来期予測は、業況DIがサービス業は上昇、製造業・建設業・卸売業・小売業は下降を予測。売上DIは、製造業・サービス業は上昇、建設業は横ばい、卸売業・小売業は下降を予測。採算DIは、建設業・サービス業は上昇、製造業は横ばい、卸売業・小売業は下降を予測。

全体を通して、「物価高騰」「値上げ難」「採用難で仕事があっても受注は難しい」というコメントが多かった。また、米国新大統領トランプ氏による関税の動向に関するコメントも目立った。

経営上の問題点では、「商品、原材料仕入れ価格の上昇」「人件費高騰」「人材不足」が上位を占めた。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 建設業・サービス業は上昇、小売業は横ばい、製造業・卸売業は下降。

来期は、サービス業は上昇、他4業種は下降を予測。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲10.5	↘	▲18.2 (▲22.5)	↘	▲24.2
建設業	0.0	↗	7.4 (▲14.8)	↘	▲14.8
卸売業	0.0	↘	▲14.3 (▲10.6)	↘	▲25.0
小売業	▲29.5	→	▲25.0 (▲6.3)	↘	▲37.5
サービス業	3.3	↗	9.1 (12.5)	↗	18.2
全産業	▲6.1	→	▲7.6 (▲8.9)	↘	▲16.1

〔売上高のDI〕 小売業は上昇、他4業種は下降。

来期は、製造業・サービス業は上昇、建設業は横ばい、卸売業・小売業は下降を予測。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	0.0	↘	▲21.2 (0.0)	↗	▲6.0
建設業	4.0	↘	▲7.4 (▲3.7)	→	▲7.4
卸売業	33.3	↘	0.0 (10.0)	↘	▲10.0
小売業	▲23.5	↗	0.0 (0.0)	↘	▲12.5
サービス業	36.6	↘	18.2 (25.8)	↗	45.5
全産業	11.4	↘	▲4.2 (6.6)	↗	1.7

〔採算のDI〕 小売業は上昇、製造業・卸売業は横ばい、建設業・サービス業は下降。

来期は、建設業・サービス業は上昇、製造業は横ばい、卸売業・小売業は下降を予測。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲18.4	→	▲21.2 (▲25.0)	→	▲25.0
建設業	▲8.0	↘	▲25.9 (▲29.6)	↗	▲11.1
卸売業	▲4.8	→	▲9.5 (▲20.0)	↘	▲25.0
小売業	▲41.2	↗	▲26.7 (▲29.4)	↘	▲43.8
サービス業	10.0	↘	▲13.6 (16.1)	↗	4.5
全産業	▲10.7	↘	▲19.5 (▲16.3)	→	▲18.8

## ◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

### 【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「原材料価格は、再び値上げの傾向が出始めている」「ゆっくりだが、紙製品の出荷の動きはある。この流れにどうついていくかが分岐点になるだろう」「PPC 紙はまだ底を打っていない感がある。家庭紙は値上げの期待感はあるが、原材料不足の影響で不透明」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「国内需要については徐々に低下が予想される。原材料、燃料、光熱費の上昇により、採算悪化が予想される。値上げ交渉が重要となってくる」「4月から5月にかけて原材料、運賃等の値上げが控えており、販売価格の値上げを進める中でどの程度受注が減るか不安である。度重なる値上げの中で、販売数（販売先）の減少は強く感じている」「家庭紙はインバウンド需要が続く限り安定する。問題は原材料の適正化だ」「目先の動向というよりも、中・長期で見た場合、人に対する問題がより深刻になっていく。労働者、消費者が大幅に減少することが現実視されている状況で、一企業としての対応に限界を感じる」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「大きな変化は無い」「自動車部品関連は回復には至らず、もう少し時間が掛かると思う。工作機械関連は順調に推移している。年度末で決算を迎える企業が多い為、在庫状況を見ながらの生産と思われる。急な増加も見込まれる」「各社 3 月決算に向けて増加はあるものの、継続性に欠ける状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後もほぼ横ばいの予想」「米国との関係次第では、更なる悪化も考えられる」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「金型業界は国内での製造が年々減少しており、それに伴い供給する材料、工具、部品の需要も減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「金型業界の見通しは暗い」「前期より少しずつだが明るい兆しを期待できる」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「キャパ越えだった仕事量は落ち着いている」「日産の業績不振による影響が少なからず波及してきそう。トランプ政権の影響もある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来期は仕事量の山谷は無く、安定傾向だと思われる」「政府のやり方次第だろう」とのコメントが寄せられた。

『食料品・飲料』…「昨年に比べ売上が減少しており、販売価格の値上げにより消費者の買い控えが考えられる」「売上が原材料の値上げペースに追い付けない」「引き続き値上げ基調だが、在庫を掛かえる販売店が値上げによる需要低迷に陥り、賞味期限があるため投げ売りをしており、価格を上げにくい状況」「為替の影響は続いている」「人手不足が深刻化している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料、人件費、エネルギー費等の高騰が続いている為、収益に影響を及ぼすと思われる」「堅調に進むだろう」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「価格転嫁により買い控えなどの消費低迷が顕著になっている状況。原材料の価格は引き続き値上げが予定されている。これ以上の価格転嫁は難しく、販売の減少につながり悪循環に陥ってしまう」「製品の値上げ難、人員不足等により廃業を決断する同業者が出て来た」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料と人件費の高騰が続き、その割には製品への価格転嫁が進まない。中国経済の停滞により輸出不振が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『印刷』…「デジタル化によるペーパーレスが加速。販促物関係も紙媒体からデジタル媒体に移行している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「デジタル化に対応するよう AI を使用した製品が必須になる。業界の岐路に立たされている」とのコメントが寄せられた。

『**建具**』…「製作物件が少ない」とのコメントが寄せられた。

『**電子機器**』…「前期は貸し切りバス事業者のデジタル点呼記録の義務化、白ナンバー市場のアルコール検知器使用の義務化があり需要が増えたが、今期はそれも落ち着き、特需要素は見られない」「マイナンバー関連への対応で、需要が増える可能性がある」「建設業が好調である。1年後の2026年度は明るいだらう」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	9.1	63.6	27.3	▲18.2	下降
売上高	15.2	48.5	36.4	▲21.2	上昇
採算	12.1	54.5	33.3	▲21.2	横ばい

## 【建設業】 景気ムード…【低調】

『**総合建設**』…「資機材・燃料の価格上昇が続いており、企業の投資意欲の停滞が心配である」「市場は拡大しているが、編りが多分にあり、その見極めが重要になる。工事の受注について、慎重に取舍選択をしていく事になるだろう」「案件は多数あるが、人手不足により生産能力（施行能力）が追い付いていない状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「トランプ旋風による経済の方向性が定まらなると、不安要素ばかりで景気の先行きが見通せない」「各企業の設備の老朽化が進み、改修及び新設の設備投資が増すと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**建設関連（資材・解体等）**』…「富士市内での建設現場が少なく感じる」「リサイクル砕石の需要が少なく、コンクリートガラを受け入れを制限しており、4月以降コンクリートガラの処分単価が上がり、リサイクル砕石の販売価格が下がる」「富士地区において、需要は低迷のまま。原材料・仕入品の価格上昇が続く。販売価格への転嫁は出来ているが、工事費用の増大による工事延期や工事中止も増えている」「同業者からは3カ月先の仕事もないと話を聞いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「建設土木は現場数が少なく、低迷する見込みだ。解体工事は順調に受注が増えるだろう。産廃リサイクルでは、木くずは燃料チップとして、製紙会社でまだまだ需要がある。コンクリートガラ処分は、砕石の需要があれば、順調に改善するだろう」「材料や人件費の高騰、人材不足により、工事費用の高騰や工期の遅れが懸念される。公共工事はもちろんだが、民間企業の設備投資等も、増えていくとは考えにくい」「夏以降仕事は増えそうな話を聞くが、官公庁の仕事は全くなく、もっと増やして欲しい」とのコメントが寄せられた。

『**建設関連（建設車両等）**』…「関東圏での物流倉庫建設が完了し、建設需要が一段落した感がある。全体の需要回復には至ってない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「国内の政治経済や国際情勢の不透明感が強くて先が見通せない。急激な変化は無いと思うが、不透明感から全体的に消極的にならざるを得ないと予想する」とのコメントが寄せられた。

『**一般住宅**』…「物価高による生活費圧迫が、住宅市場にどのように影響を与えるか心配される」「4月の建築基準法改正(省エネ基準適合の義務化、断熱等級の最低基準設定、4号特例の縮小、木造ルールの緩和、既存建築物の適用基準の緩和等)にむけて、かけこみの講習会への申込者が多い。様子見の3月という感じ」とのコメントが寄せられた。

『**設備工事**』…「富士市内での引き合いが落ち込んでいる」「全体的な仕事量が減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「来年度の引合いが今まで以上

に少なめ。営業範囲を富士市外へ広げる必要性を感じている」「良くなると思えない」「来期は良くないと思われる」「過当競争と競争力の低下で見通しは厳しい」とのコメントが寄せられた。

『**土木関連**』…「役所関係の手続きが遅く感じる」とのコメントが寄せられた。

『**造園土木**』…「樹木の伐採が多くなった。公共工事の発注に期待する」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「6月頃から富士駅北口第一地区再開発に向けた解体工事が始まる。解体工事、建設工事ともに、請け負った会社は材料費・燃料費の高騰で大変だと思うが、安全施工で頑張ってもらいたい」「今の市政では、街の活性化もあまり期待出来ないので、景気の低迷は続いていく事が予想される」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	14.8	77.8	7.4	7.4	下 降
売上高	22.2	48.1	29.6	▲7.4	横ばい
採 算	0.0	74.1	25.9	▲25.9	上 昇

## 【卸 売 業】 景気ムード…【低 調】

『**機械器具**』…「仕入価格の上昇が止まらない。販売価格の値上げについては概ね理解してもらえているが厳しいケースもある。設備投資の凍結・延期・縮小など良くない話が多い」「不景気に伴い、客先での設備投資意識が低いが、補助金制度を上手く活用しながら、設備投資を前向きに検討しているユーザーも増えてきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「国際情勢、政治が不安定で、先行きは不透明」とのコメントが寄せられた。

『**自動車部品**』…「検査ミスによる車両製産停止期間も終了し、半導体も順調に出回るようになり、国内市場が元に戻ってきた。新車販売が伸びて、中古車市場も健全に戻りつつあり、補修交換部品需要も回復してきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「安定した市場になっていくだろう」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…「規格品販売が中心の業者は、需要の停滞により、水面下で価格競争が激しくなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「下請法で取引条件を変更させられた会社は、リークした（と思われる）会社に新たな発注をしない、または徐々に発注を減らして取引を切るとは容易に想像できる。従って主要取引先の価格転嫁は難しい。仕入先が大手であれば値上げ要請を受け入れざるを得ないので、今後も採算は悪化し経営の見通しは厳しい。長期金利上昇が数か月後には採算悪化に更なる追い打ちをかけることになりそう」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…「不安定のまま推移」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「明るい動向とは言えないが、チャンスがないわけではない。逃さずに捉えていきたい」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…「輸出は思う様には回っていない。製紙原料の減少が不安。ペーパーレスの影響をひしひしと感じている」「製紙業界のすみ分けがますます進み、統合が不可能な会社は廃業する可能性が大きい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「古

紙について良い話はなく、減少の一途。輸出も良い話がない」「事業分野の見直しと新規事業の推進が求められる」とのコメントが寄せられた。

『**包装資材**』…「トイレットペーパーは業務用が順調」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「アメリカの関税で自動車関係に影響が出てくるだろう」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…「製品の値上げに期待している」「再生プラスチックは、リサイクルプラスチックカードの用途で引き合いが多い」「原材料、エネルギー価格の上昇により、厳しい状況が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「採算是正が成される」「日本も含め世界の政治状況が安定し、貿易戦争の起らない状況でないと先行き不透明で見通しが立たない」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…「鉄スクラップが上昇基調。米国の鉄鋼関税の追加により、米国内では鉄鋼製品が値上げに連動して鉄スクラップが上昇し、日本産の鉄スクラップも上昇した。非鉄スクラップは、最大消費国である中国の不動産不況の影響で需要は低迷しており、国際価格や為替相場の影響で変動が厳しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ガザ復興の気運が高まり、東南アジアのトリコの製鉄所が増産に入り、原料の鉄スクラップが値上がり気味。米国でも消費物価が上がりインフレ気味である」「米国、大統領の動向によって、今後の見通しに変化がある」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…「富士市内の大きな公共工事をスーパーゼネコン(単体売上高1兆円超のゼネコン)が請負う為、関われないことが多くなった。せめて下請け業者を市内業者に指定するなどの配慮があるとよいと思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「上がり続ける人件費をどうやって捻出するかを考えなければならない」とのコメントが寄せられた。

『**食品**』…「食品流通業界では大手とのM&Aが進んでいる。流通革命による業界再編は進んでいく」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現状維持を目指す。欲をかいて流通販路を拡げたとしても、採算を合わせるのは難しい」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「大企業の賃上げ率や驚くような高い初任給が報道されているが、地方の小規模事業者は同じような対応が出来るとは思えない。求人難がより深刻になりそうである」「直近5年以上連続黒字決算を続け、粉飾もない企業が何の兆候もなく突然破綻している。表面上問題が無いと思われる企業の突然の倒産は、景気の反転時に散見される事象と捉えており、今後は更に増えるのではないかと。景気は後退期にあると思われる」「関税の影響が不安」「水田が住宅地になっていく状況で春掘りが必要なのか疑問に思う。歩行者、車両関係の安全、ゴミの投げ捨て状況を考えれば、蓋をして舗装した方が良い」「リサイクル業界における小規模事業者への圧力が問題化」「BtoBはBtoCよりも安定的と感じている」「インバウンドでの影響も古紙に与える良い影響は特にない」「組織の見直しから統合する会社が増えていく」「昨年シラスが不漁だった。3月20日が解禁なので今年は期待したい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	14.3	57.1	28.6	▲14.3	下降
売上高	28.6	42.9	28.6	0.0	下降
採算	9.5	71.4	19.0	▲9.5	下降

## 【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「春夏に向けて動き出す時だが『春は春らしく暖かい、夏は夏らしく暑い』といった当たり前の季節感にならないと商品の動きが鈍い」「全体的に悪い。商品の流通在庫が少なく、新作も減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「工業系のお客様をみると、元気な会社とそうでない会社の差が大きく感じる」「祭り関連が堅実に売れているが、売上の全体を補う程ではない」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品・飲料』…「国が掲げる農産物の輸出強化策に則り、お茶の有機栽培支援や越境販売支援が充実している。しかし、輸出に関しては有機栽培条件が必須なため、国内の茶生産家が全て該当できるわけではない。むしろ有機栽培の国内需要は低く、輸出だけを頼る茶産業は非常に危険と判断している」「米価が大幅に値上がっている。小売価格の値上げが難しく、利益が圧迫されている」「物価高騰で生活費の節約傾向が強く、(バレンタイン、ホワイトデーなど)プレゼント需要が減りつつある。ケーキやアイスはシャトレーゼとコンビニでという人が多いので、弊社だけにしかできないサービスを提供していくしかない」「茶葉は昨年一番茶の茶価の安値打撃を受け、茶作りの存続が危ぶまれている。お茶は抹茶でなければ生き残れない状況になっている。どのように対応していけばよいのか課題である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「茶の輸出がさらに強化されるだろう。ただし、輸出量は伸びるが価格が伸び悩むと予測する。また有機栽培と認識されるまで時間がかかるため、例えば 3 年後の相場予測を誤る可能性も含めると、輸出一辺倒はリスクが高い」「備蓄米が放出されて、少しは米価が下がるかもしれない」「オンライン販売が伸び悩んできているので、販売スタイルを変更するときに来ている」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「4 月 13 日に大阪関西万博が開催される。パナソニック「ノモの国」三菱の「未来館」等電気業界では多数出展される。最先端の技術が披露される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「家電はなくてはならない物で、消費者への身近な電気相談役として、電気の正しい使い方等啓発活動をして行く事が望ましい」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…「消費者は物価の上昇に伴い生活必需品に資金を回すので、高価格帯の商品は別として、今後は中価格帯の商品から低価格帯への移行が懸念される」「予想をはるかに超える少子化の加速で、営業努力でカバーできない事は明白となっている」「金属類の仕入は大幅に値上げされている。年に 2 度値上げした商品や 50%以上値上げした鍋メーカーもある。陶器類も大幅に値上げ」「コロナ禍の影響がやや治まってきたように感じる昨今だが、まだコロナの影響は続いていると感じることが多い。パソコンやスマートフォン等の普及で様々な商品の通信販売が一般家庭に広く行き渡り、その影響で苦慮している小売店も多いのではないかと思う」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ホビー商材やインバウンド向け商材を増やし、新たなターゲット層を開拓したい」「ロシア産(世界第 2 位の産出)のアルミニウム原料であるボーキサイトが入ってこないとなれば値上げは続く見込みだ。商品によっては数年前の 2 倍以上値上がっている物もある」「まずは信用をなくす事なく頑張っていこうと思う」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「保険調剤は、DX 化が進められているが、オンライン資格確認、電子処方箋等、制度変更についていくのがとても大変」「保険証の廃止、マイナ保険証への移行が進められている。これまでは大きなトラブルはないように思えるが、電子処方箋はどこまで普及するか不透明」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「生産者不足と天候不順の影響で花材が出回らず、価格が高い」「天候と物価高が変わらなければ現状維持」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「4 月からの新生活に向けて、3 月は業界全体として繁忙期である。少子化や、ネット販売などの影響で、売上台数は少なくなっているが、忙しいのは変わらないだろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「商品の値上げは止まらないが、値上げ幅は縮小してきた」「インバウンドの影響で富士市内でも旅行客が目立っている。お土産需要が偏り、在庫減、欠品が続いて従来のお客様に迷惑をかけてしまっている状況。インバウンドの影響がいつまで続くか先の見通しが判断できにくい、今の時流に頼る手法はリスクが高く、冷静に判断する事は必要だろう」「毎月1日に開催していた『吉原宿一の市』が3月で終了した。新たなイベントを計画しており、吉原商店街の活性化と集客へ期待したい」「5月に開催される自転車イベントの富士グラベルだが、そろそろエントリーが始まるとの事」「富士駅北口第一地区再開発が始まり、人の通りが減っている」「吉原宿一の市は3月1日で終了する。4月12日から新たな『吉原アーケードマーケット』をスタートさせる。ターゲットをファミリー層に定め、吉原のイメージを刷新していきたい」「吉原商店街まるごとマルシェは大盛況だった。商店街に人が集まるだけでなく、各店での買い物客がすごく増えた。若い商店街メンバー（Y・W・C 吉原若旦那くらぶ）が頑張った成果が出ている」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	12.5	50.0	37.5	▲25.0	下 降
売上高	33.3	33.3	33.3	0.0	下 降
採算	13.3	46.7	40.0	▲26.7	下 降

## 【サービス業】 景気ムード…【安定】

『飲食』…「インバウンドの影響により外食産業は好調だが、日々上がっていく原材料に悩んでいる事業者はかなり増えているだろう。日々価格も変動しており、対策を取れないのが実情」「景況感も少しずつ安定してきている」「富士駅北口第一地区再開発が始まりつつある中で、お客様が商店街に来てくれるか心配である」「仕入れ価格上昇による利益縮小が非常に辛い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「利益確保に向けて、価格改定しないと先がなくなる。物価が上がり、最低賃金も上昇するだろう」「材料の価格が少し安定してきている」「工事関係者の人たちの商店街利用が望まれる」「新しい業態にチャレンジするしかない」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「人材不足に対しては、外国人労働者を採用し現状を維持している」「仕事は多岐にあり」「人材採用が難しい。事務、配送が特に難しい」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「求人需要は増加しているが、あわせて採用難の顧客が増加している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「求人採用のミスマッチを改善していかないと、求人媒体への掲載頻度低下につながる可能性あり」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「中小企業はコロナ融資の返済が始まり、厳しい経営環境に置かれている。大企業は労使交渉で賃上げ満額回答とした会社が多い反面、中小企業は人手不足で価格転嫁もままならず、悪戦苦闘している。中小企業を顧客とする税理士業界も影響を大きく受けている。後継者不足に悩む個人企業は廃業が増加している」「過当競争が続いている」「どの業界もそうだと思うが、地方は人材が不足しており、人材をより多く確保できるところに良い仕事が集まる。ただし良い人材を確保するのが中小企業にとって困難である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後も中小企業の厳しい状況は変わらないだろう。中小企業の一部はM&Aの検討を余儀なくされる。廃業、倒産も増加する

のではないか」「採用難の傾向はさらに進むと思われ、人材を確保できず事業規模を縮小するところは今後も増えると思われる」「明るいとは言えない」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「繁忙期と閑散期の差が大きい業界で、閑散期には仕事が少なくて人材が余ってしまう」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人材不足、人件費高騰で経営を圧迫している。人材確保が厳しく採用活動に使う費用も経営を圧迫している。さらに、原油価格高騰と三重苦である」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「二極化が進んでいる。物価高騰による住宅の建築コストが上昇し、建売住宅の販売が難しい。大手住宅メーカーは建設コスト高を改善する為、土地購入価格をかなり低めに設定し、総額が上がらないようにしている。土地を提供する地主や中小不動産業は値下げ一方の土地価格対応に苦慮している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「物価高騰は全ての問題に直結している。春闘における大手のベースアップが進む一方で、その影響を受けている中小零細企業の経営改善及び従業員の所得向上が図れるか見通しは暗い」とのコメントが寄せられた。

『クリーニング』…「需要は微増で推移すると思われる。今後は、借入金の金利上昇による利益の減少と、労働力不足が懸念される」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「業況は好転している。この先トランプ大統領の方針によっては業界の動向がどう変わるか気になっている」とのコメントが寄せられた。

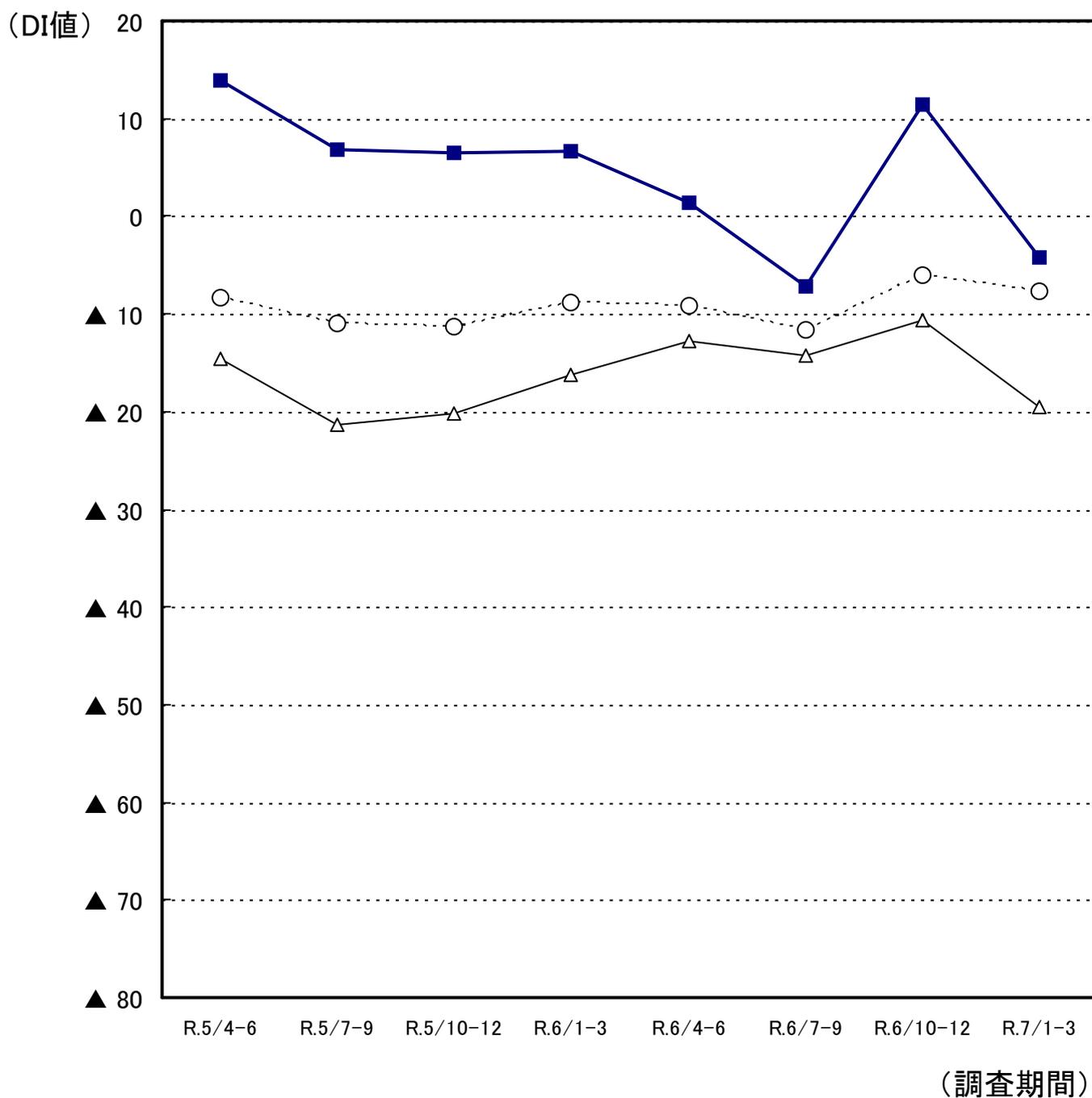
『ホテル・旅館』…「コロナが明けて、ようやく施設の認知が広がっている。コロナ禍で閉めた施設もあり、その需要が出てきている。スポーツのみならず企業研修の問い合わせが増加している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「施設に余裕があるので、営業先を増やす。北里アリーナ富士の完成という好条件が揃うので、サービスの向上により、しばし右肩上がりの状況となる見込み」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「アルバイトやパートの定着が課題」「5月3日から6日までの『エキキタまちおくり』イベントがあるので、楽しみにしてほしい」「富士本町には、Bar 割烹、フレンチ居酒屋、オイスターバー、イタリアンとレベルが高く楽しめる店舗が集まる相乗効果のある地域になり、良い方向に向かっている」「岳南経済の向上を願う」「地元の実業高校の卒業生が地元就職しない為、中小零細企業の人材不足が深刻となっている。仕事があっても受注できず経営が大変という声も聞く」「北里アリーナ富士のオープンが4月に控えている。人流に期待」とのコメントが寄せられた。

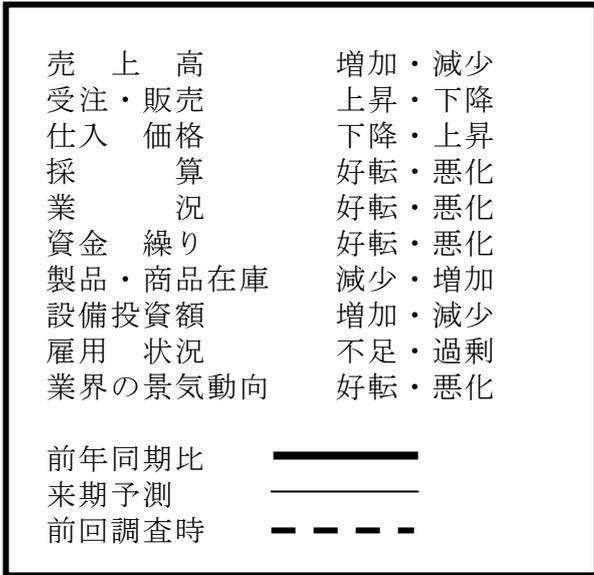
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	27.3	54.5	18.2	9.1	上昇
売上高	40.9	36.4	22.7	18.2	上昇
採算	18.2	50.0	31.8	▲13.6	上昇

# 全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

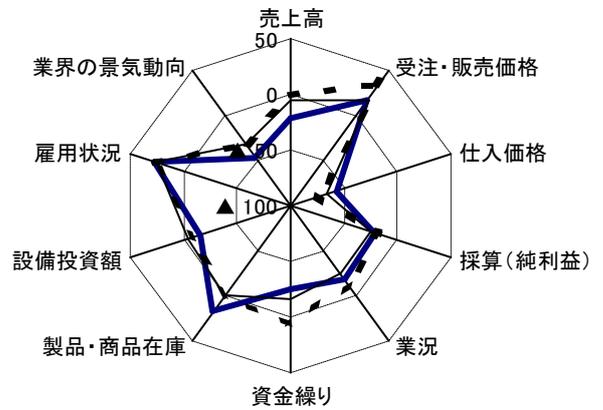
■ 売上    ○ 業況    △ 採算



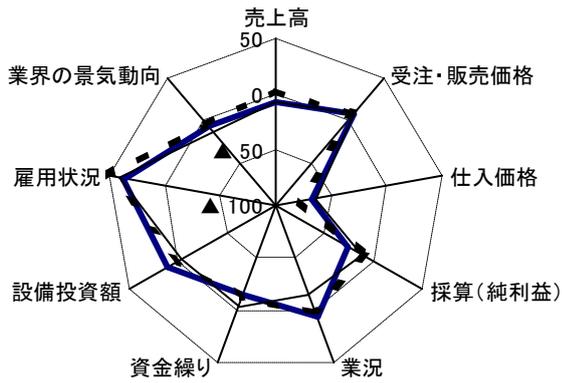
# レーダーチャート



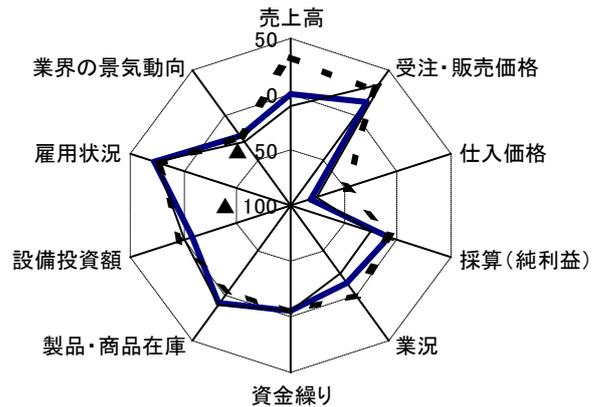
## 【製造業】



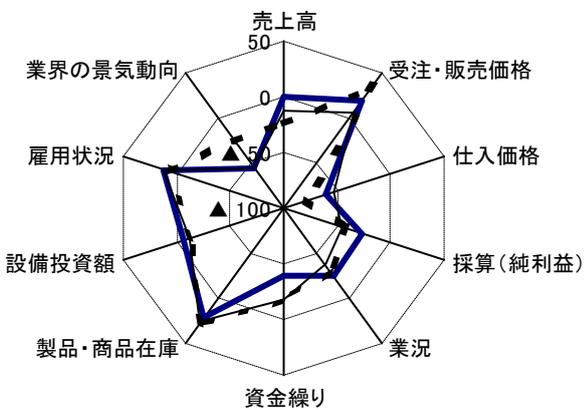
## 【建設業】



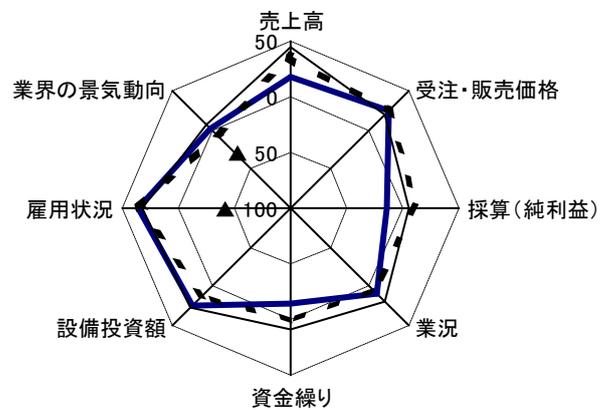
## 【卸売業】



## 【小売業】



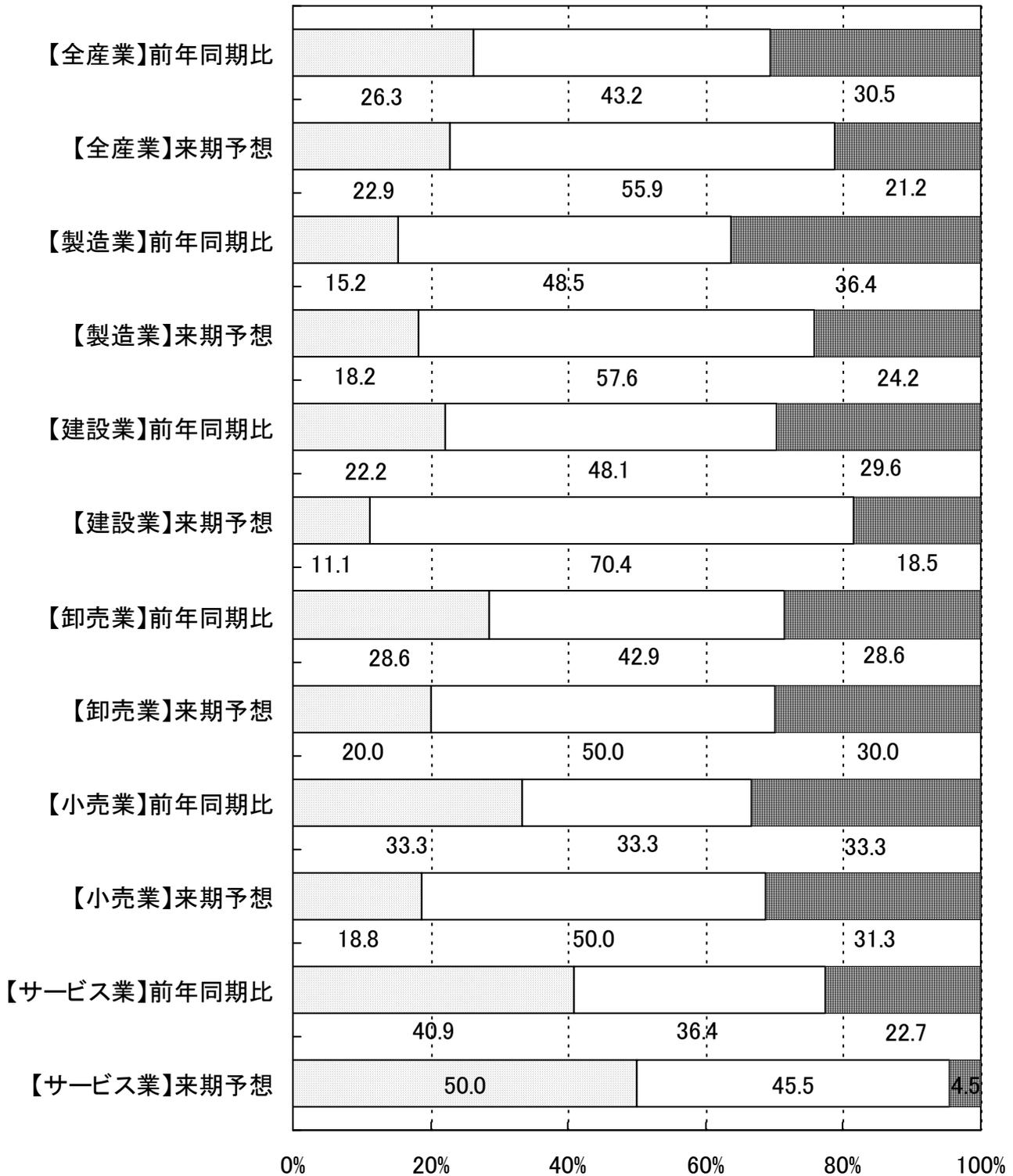
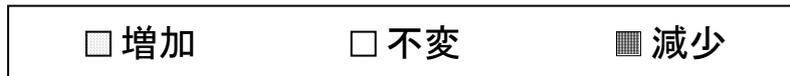
## 【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 販売価格値上げ難</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>その他 設備老朽化</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 人員不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／売上減に伴う利益減／設備老朽化</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人件費高騰／人材不足</p> <p>その他 過当競争／売上、利益減による資金圧迫／人員不足</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 その他の需要の低迷／売上、利益減による資金圧迫／人員不足</p> <p>3 位 設備老朽化</p> <p>その他 売上減に伴う利益減</p>
サービス業	<p>1 位 人件費高騰</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 過当競争／人材不足／設備老朽化</p>

# 売上高の前年同期比と来期予測



## 最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2025年3月14日）

日本銀行静岡支店  
照会先 TEL 054-273-4106

（経済面）県内の景気は、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、緩やかに増加しつつある。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

### 1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

#### （1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。

百貨店・スーパー売上高は緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売額は緩やかに回復している。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は持ち直している。新車登録台数・販売台数は持ち直している。旅館・ホテルの宿泊数は人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

#### （2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：25/1月▲14.9% → 25/2月▲7.9%）

#### （3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に増加している。

（短観・設備投資額：23年度計画8.1% → 24年度計画13.4%）

#### （4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：24/12月▲30.8% → 25/1月51.6%）

#### （5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：24/12月2.7% → 25/1月▲12.9% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

## 2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：24/11月▲0.3%⇒12月▲3.3%<速報値>)

自動車・同部品は横ばい圏内の動きとなっている。二輪車・同部品は弱含んでいる。食料品は横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は弱めの動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は持ち直している。紙・パルプは横ばい圏内の動きとなっている。楽器は弱めの動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：24/12月1.08倍⇒25/1月1.10倍)

(3) 物 価 . . . . . 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比24/12月3.5%⇒25/12月3.6%)

## 3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(25/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(18件<前年比：100.0%>)  
負債総額(24億円<同：147.4%>)

(2) 預 金 . . . . 前年を上回っている。(前年比：24/12月末+1.4%⇒25/1月末+1.2%)

(3) 貸 出 . . . . 前年を上回っている。(前年比：24/12月末0.5%⇒25/1月末1.0%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)  
(水準：24/12月1.367%⇒25/1月1.384%)

以 上